６月会山行

北面の沢遡行　浅草岳山頂集中　食料制限付き

担当　鈴木　田村　栗原

【日　時】2008 年 6 月 14 日(土)～15 日(日)
【場　所】浅草岳　　15 日(日) 12 時 00 分山頂集中
【ルートおよびメンバー】

A	左沢～1150m付近乗越～大三本沢～浅草岳	*大田原Ｌ・田村・藤本・斉藤（健）
B	白崩沢～ヤスノ沢～前岳～浅草岳	*山川Ｌ・棚橋・鈴木・坂井
C	ムジナ沢～前岳～浅草岳	*浅井Ｌ・石井・飯田・山口
D	村杉沢～北岳～浅草岳	*小川Ｌ・佐貫・野村・木下・煤孫
E	小三本沢～浅草岳	*中村Ｌ・大野・佐藤（耕）・三坂
F	大三本沢～浅草岳	*矢野Ｌ・田邉・藤岡・栗原
G	ヤヂマナ沢～浅草岳（日帰り）	*岩田Ｌ・手嶋・津田・次郎

昨年（2007 年）6 月の会山行は田代平集中として立案した。今回同様難易度の高いルートはなかったので、多少の雨でも実行しようと考えていた。しかし徐々に予報が悪くなり、ひとパーティでも遅れるとすべてのパーティに影響が出てくる集中山行だったので、出発日の午後までいろいろ調べながら悩んでいたが、やむなく中止にした。そういう意味では、今回は予報もよく、山行中も天気に恵まれ、心配する必要がなかったので、担当として負担が少なかった。山頂では不明な山菜の検討会も。中には臭いで判別しようとする者もいた。全員が予定時間に集中した、浅草岳山頂の青い空と皆さんの笑顔は、とても眩しかったです。

まだこの季節は、雪の山からようやく移ってきた方も多く、沢初めのメンバーも多い。計画としては、山菜等も楽しめる余裕のある計画にした。しかし、それだけではつまらないので、以下のような食料制限を設けた。今後は徐々に目を三角にして厳しいところへ行く人達も、今回は別の楽しみで春を味わっていただけたのではないだろうか。

6 月会山行食料制限について（一泊二食分の食料として）

- 主食として、米、麺類（うどん・そば・そうめん・ラーメン・スパゲティなど）、粉類（小麦粉・てんぷら粉など）はご自由にどうぞ。
- 副食類は、一パーティ缶詰・真空パックなど、内容量 200 グラム以内とします。重量制限内であれば麩・油揚げなども結構です。
- 醤油・塩・味噌・砂糖・マヨネーズ・ケチャップ・チューブ入りの調味料類、香辛料、油、ふりかけはご自由にどうぞ。
- 酒のつまみは、乾き物も含めて禁止です（山行前夜は除く）。あくまでも山菜・キノコやイワナ等を料理し、つまみにしてください。
- 200ｇ以内の副食類以外は、すべて収穫したものでまかなってください。仮に何も取れなくとも、主食類に調味料・香辛料で味付けし、食事&つまみにしてください。
- つり用の餌といってイクラを持っていき、人間が食べるのはなしです。ブドウムシ食べたい方はご自由にどうぞ。

● 山菜採りは、当日食べる分だけの節度ある採取をお願いします。

結果は各パーティの報告を御覧下さい。いままで話として聞いているのでは、「もっと制限を厳しくしよう」というのから「もういいよ」というのまでいろいろ。「酒も制限しよう」という（実現不可能？）のもありました。さて今後どうなりますか。

交流

今回は、山頂でＡＣＣ-Ｊ茨城の３名の方が合流された。小三本沢を遡行されたとのこと。トマのパーティとの合同宴会にはならなかったようだが、山頂で一緒に記念撮影や話をすることが出来た。日頃月報を交換させていただいている関係で、その活動状況は拝見させていただいているものの、ごく限られたメンバーとの交流しかない。こういった機会にお会いでき、顔の見える交流をさせていただくと、今後月報を拝見する楽しみもより増えた。また山でお会いする機会もあると思います。今後ともよろしくお願い致します。

いろいろ問題点はあるが、今回のような軽めの計画の時に、山中で他会のパーティとの交流があってもいいかもしれない。沢の中で同宿または交差するとか、集中場所に合流するとか。話が大きくなりすぎないようにするためには、こちらの計画を発表し、どのように行動するかは、各会にお任せすることになるだろうけれど。

山域が別であっても、同日に同じテーマ（食料制限等など）を共有し、アナログ的ではあるけれど、月報で報告しあうという方法もある。そんなことで、同じような山行をしている者同士の垣根が少しでも低くなればと思う。

地震

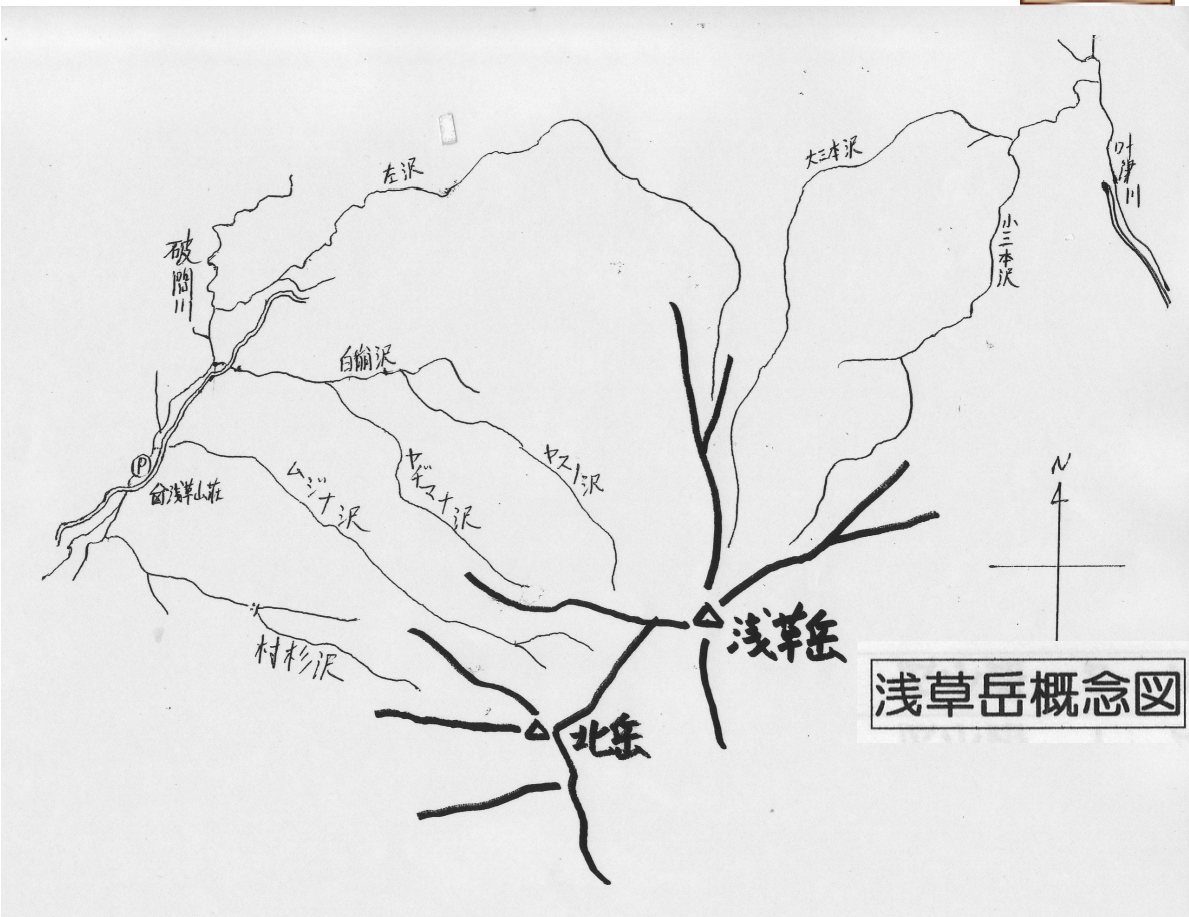
14 日には岩手・宮城内陸地震が発生し、栗駒山周辺が甚大な被害を受けた。温泉や山中も含め十数名の方が亡くなられた。衷心より哀悼の意を表したい。

縁あって、いままで何度訪れたか数え切れない栗駒山周辺。産女川は、麝香熊沢は、それぞれの温泉は、岩魚の里は、とあげたらきりがない。去年の 6 月の会山行が雨で中止になっていなかったら、よく知っているという意味では候補地になっていたかもしれない。またこの日に会山行がなかったら、季節的に会メンバーの誰かは栗駒山周辺に行っていた可能性もある。

同じクラスの地震が、栗駒山ではなく、浅草岳付近で起きていたら・・・。集中山行であるだけに、考えただけでもぞっとする。対策は・・・ない。あえて今思いつくのは、各パーティで所持することになっている無線機が、とても有効に活躍することがあるかもしれない。生きていればですが。

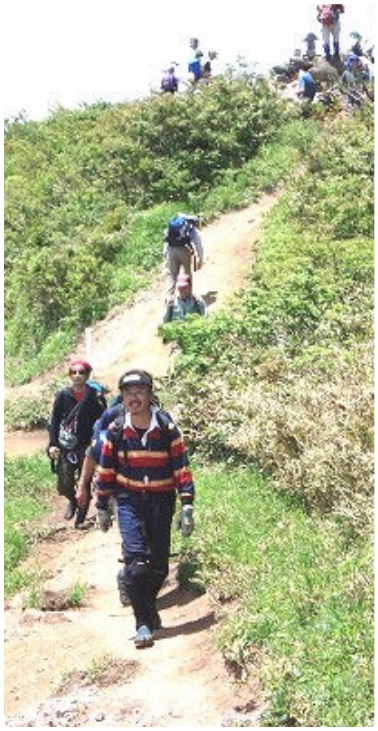
遭対マニュアルによる捜索方法は、捜す側も捜される側にも有効だが、もう一段検討しておく必要があるかもしれない。

（文責：鈴木）



山頂付近に徐々に集まる

最後のＰは 11：55 到着



日帰りＰで会長到着

【6月会山行Aパーティー】北海道を思わせる沢旅

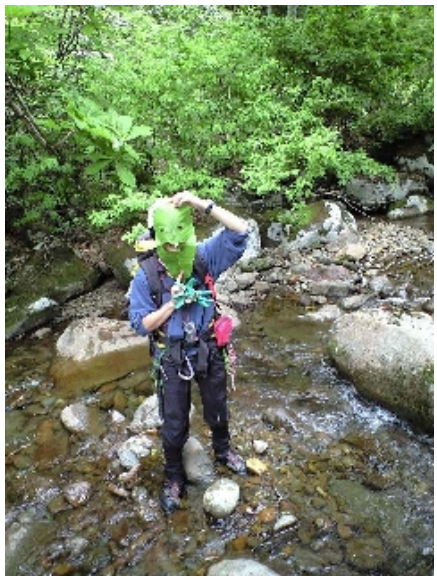
会越国境　浅草岳左沢

斎藤（健）

【日時】　2008年6月14日（土）～15日（日）
【メンバー】L大田原、田村、藤本、斎藤（健）

会山行のパーティーと沢が決まり、地図で自分の行く沢を探してみると、青々と湿地の印がついている。ある人は深い薮があると言い、またある人はボートが必要と言っている。今回の目玉、左沢の湿原とはいったいどのような所なのだろうと、想像するだけでもワクワクしてくる。

■6/14（土）　晴れ



左沢・右沢出合の橋のところから入渓。明確な踏跡がある。今回の会山行は食料制限があるため、早速、竿を出す。私は糸が絡まり釣どころではなかったが、大田原さん、田村さんにも当たりは無いようだ。左沢自体は、新緑と春の風が気持ちよく、快適な河原を歩きだ。１時間ほど行くと、釣師と遭遇した。５匹ほど釣上げた後のようで、どうりで僕らは全然釣れない訳だ。釣りの邪魔をしてトラブルになるのもどうかということで、僕らは左岸を高巻き、陸に上がった河童に。頃合を見計らって沢に戻りしばらく行くと、辺りが開け湿原の入り口に到着した。

湿原は河床よりも３ｍ程高く、草の堆積状況から、その昔、湿原であったことは分かるが、今は、草地になっていた。広々としている上に、どこまでも水平で、川は蛇行を繰り返す。期せずして皆が口にした同じ言葉は、“北海道”。80cmのイトウが悠々と泳いでいても不思議ではない、そんな雰囲気を醸し出している。

田村さんは、新人の僕に、植物や鳥についていろいろと教えてくれ勉強になる。湿原跡には、山葡萄やアケビなどが沢山生え

ていて、早速、収穫。待ちきれずに、山葡萄の実をそのままかじってみると甘酸っぱくて美味しい。青物の山菜とは違った自然の味がする。左沢のパーティーは山菜を収穫できる面積が広く、夕食の期待が膨らむ。かなり開けているので、もしかして無線が通じるかもしれないとのことで、１２時の通信を試みるが、不発。

程なく湿原を抜け、普通の渓相に戻る。地図で沢が北向きに方向転換するあたりに差しかかると、イワナの姿がチラホラ見えてくる。いかにも、いそうな淵で、大田原さんが竿を取り出し、一振りすると、イワナがヒット。さすがリーダー。

雪渓が現れたあたりで行動を止め、一段高い広場にテントを張った。収穫に精を出しすぎたせいか、火がつくのと同時に夜のとばりがおりた。

■6/15（日）　晴れ

今日は、雪渓歩きから。程なく左沢の源頭に近づき、薮漕ぎが少なそうなルンゼ状のところを選んで下る。途中、9:00の無線交信。矢野パーティーのコールが聞こえ、応答するもあちらには聞こえていないようだ。下降地点に矢野パーティーの足跡がなかったため、これから来るのだろうと推測し、雪上に“オオタハラ”と巨大な木文字のメッセージを残す。その後、雪渓歩きを続けると、矢野パーティーの足跡を発見。Aパーティーの苦労した作品は、幻のメッセージになってしまった。

程なく大三本沢も源頭に到着。あとは、笹や潅木の薮を漕いで浅草岳頂上を目指す。藤本さんに太極拳風の薮の漕ぎ方や影のように前の人について行く方法、膝の使い方などを教えてもらったりしているうちに頂上が見えてくる。「こうなれば、ジャスト頂上でしょう！」ということでシャクナゲを空中戦で突破し頂上へ。天気がよく、田子倉湖の眺めがとてもよかった。

★　食事

Aパーティーは田村さんの豊富な知識と嗅覚で多くの山菜を食することができました。

○　採れたもの：

ウド、ウルイ、山ブドウ、コシアブラ、トリアシショウマ、ホンナ、ミヤマメシダ、ミツバアケビ、リュウキンカ、ホオノメ（朴の芽）、ジダケ

○　料理：

ウド、ウルイ、山ブドウ、コシアブラ、ホオノメの天麩羅。リュウキンカ、ウル

イのマヨネーズあえ。トリアシショウマのゴマあえ。ホンナと油揚げのしょうゆ炒め。ウルイの浅漬け。ウドの酢味噌あえ。ウルイとオイルサーディンのサラダ（しそ、海苔、レモン汁、しょう油）。コシアブラご飯。ウドの塩コショウ炒めパスタ。ウドのキンピラ、イワナの塩焼き

○　副食：

オイルサーディン１００ｇ、油揚げ４０ｇ、海苔１０ｇ、紫蘇１０ｇ。（未使用・・・ちりめん３５ｇ）

★　感想

今回リーダーを仰せつかったものの、特にその責務を果たすことはなく、山菜採りやら釣りに熱中してしまった。イワナの姿を見たいがために、つい前へ前へと出てしまい、他のメンバーは呆れたことだろうと思う。反省。沢自体何にもなくて、釣り人さん歓迎！状態だったわけだが、滝もゴルジュも無くたって、鮮やかな緑、かわいらしい花、穏やかな流れ、焚き火、山の幸・・・十分楽しめた。ことに今回は食料制限があったので、山の幸を満喫できたと思う。来年はもっと制限してもいいかも!?（大田原Ｌ記）

北海道の川かと思うような湿原の中の流れがあって、気持のいい雪渓歩きがあって、絶妙な尾根の乗越しがあって、最後はしっかりと藪を漕いでピッタリ頂上に出て。滝と呼べるようなのは一つもなかったのに、実に充実した楽しい沢でした。やっぱり沢登りの楽しさって、技術的な難易度だけでは量れないですよね。ただ一つだけ、雪渓に残した「オオタハラ」の木文字が誰の目にも止まらず消えてしまうのは、つくづく残念です。（田村記）

春の潤いに満ち変化に富んだ山中彷徨を楽しめた２日間、下山が一番タイヘンでした。てきぱきと調理を仕切って楽しい食卓を盛り上げてくれた田村さんをはじめ、皆さんありがとうございました。（藤本記）

【グレード】1級

【行程】6/14 左沢・右沢出合(8:10)～湿原入口(11:40)～湿原出口(13:20)～1020mBP(17:00)

6/15 BP(8:00)～1150m左沢源頭(8:35)～ルンゼを下降して大三本沢へ(9:00)～大三本沢源頭(10:35)～浅草岳(11:35)

【地図】守門岳、只見

【6月会山行Bパーティー】　食料制限の緊張感を堪能？

上州会津　浅草岳集中　白崩沢～ヤスノ沢

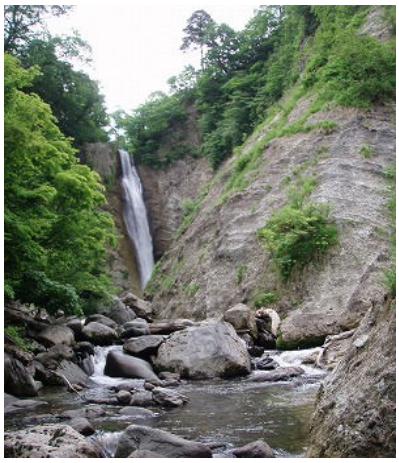
坂井

【日時】6月14日(土)～15日(日)

【メンバー】山川（L）、棚橋、鈴木、坂井

6/14(土)　晴れ

初の会山行、初の泊まり装備での沢ということへの不安と山菜への期待の中、出発した。白崩沢橋からすぐに入渓。少し歩くと高さ５メートルほどの堰堤が出現。堰堤の横の滑る岩を、木をつかんで登る、トマの先輩方にとってはなんてことのない場所だが、ここで私はさっそくロープを出していただき、さらに引っ張りあげていただいた。



そのあと、しばらく行くとちょっとしたゴルジュが出現し、濡れて突破するか、左側を高巻くかの選択になり、高巻くことに決定。山川Lが華麗に泥壁(約10メートル)を登って行きロープを出していただいた。ここでも私は上りきる最後に力尽きて引っ張りあげていただいてしまった。

高巻き後、山菜を取りながらのんびりと歩いていると大滝が出現。ここで1時間ほど男性陣による釣りタイムに突入。お二方の尽力により、合計３匹イワナが獲れた。

12時近くになり二股の右側の沢から大滝を巻き、その後は山菜をとりつつ、15時ころテント場に到着。テントとタープを張り、薪を集めると、私が一番楽しみにしていた、焚き火と山菜料理の開始。

私以外のお三方がそれぞれ山菜料理の準備やイワナを焼いたりしていただいている中、食べてばっかりで申し訳ありませんでした。どれもとてもおいしくて幸せなひとときでした。夜も更けた後、焚き火を囲んで、興味深い話もいろいろ聞けて良かったです。

ウド丼

6/15（日）　すかっ晴れ

朝メニューは山菜入り冷麺。

私のへなちょこぶりのせいか、朝は早く出発することになり、6時ころ出発。

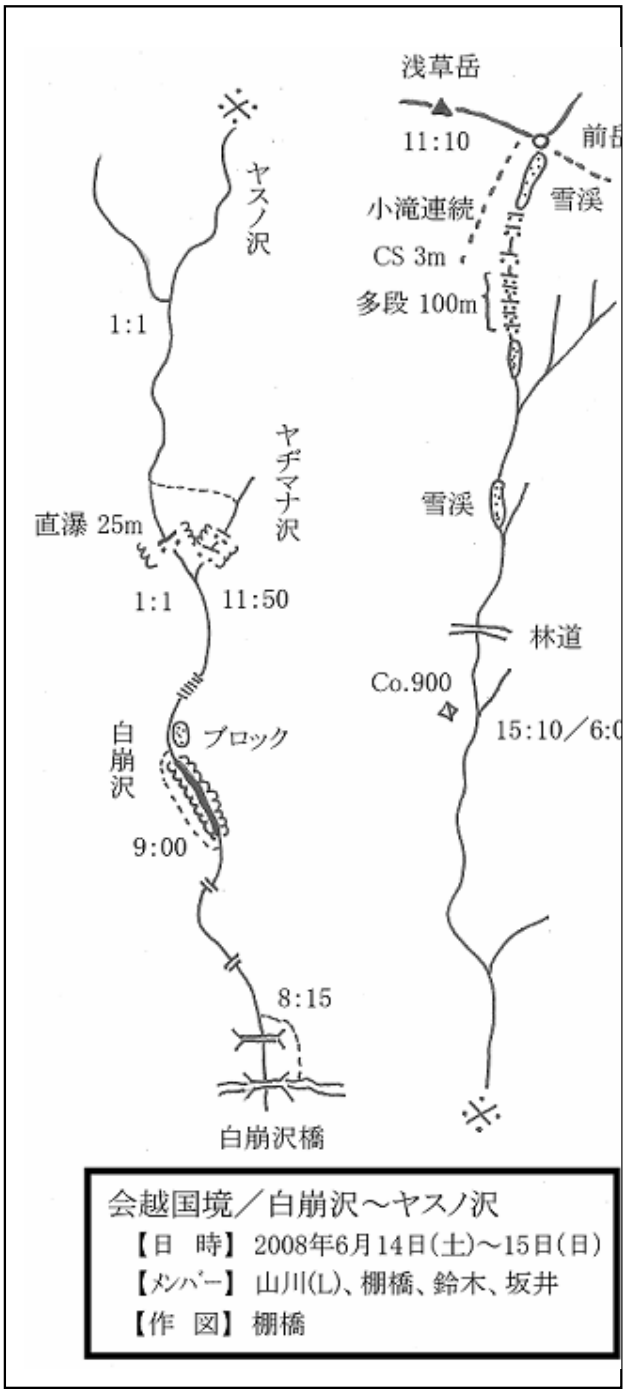
林道を越えてしばらく行くとすぐに雪渓がはじまり、見通しのよい二股に到着。右側は

けどそのあとは問題なさそうということで、左側に行くことに決定。

ところがこの後、私がスパイク足袋をはくことにより、タイムロスをし、その後出現した、滑る多段の滝で3回ロープを出していただき、そこでも時間をかけてしまった。多段の滝が終わると最後は雪渓歩きになりそのまま登山道に出ることができた。登山道に出たとき、丁度11時の無線タイムで、浅草岳の頂上にはもう他のパーティが到着しているとのこと。

浅草岳の頂上につくと3パーティほど到着済みだった。

山川Lの、「最初に浅草岳に着いて、他のパーティを迎えてあげたい」という野望がかなえられなくて申し訳ないです。



今回の山行では、自分の技術、体力不足のために、余計に多くに時間をかけてしまった。もっと精進し、足並みをそろえて、ザイルも出さないですむようにならないといけないと思った。あと、今回は余裕がなく全然山菜が取れなかったので、次回は山菜を覚えてたくさん採りたいと思う。

今回は個人的に反省することが多く、リーダーの山川さん、サブリーダの棚橋さん、鈴木さんのお三方には本当にお世話になりました。どうもありがとうございました。

【グレード】1級

【行程】

6/14(土)　8:15白崩沢橋出発～10:55-11:55二股 滝のところで釣りタイム～15:05 880m二股幕営～21:00又は24:00に就寝

6/15(日)　4:10起床～6:00発～6:20林道交差～10:55稜線～11:15-12:10頂上
～14：50登山口

【地形図】只見、守門岳

会越　浅草岳　ムジナ沢

浅井・他

【日時】　2008年6月14日～15日
【メンバー】L浅井、石井、飯田、山口

ムジナ沢は山スキーではメジャーなルートで、私もだいぶ前に一度行ったことがあるが、沢のルートとしてはこれまで記録を見たことがない。おそらく沢としては魅力に乏しいのではないかと想像されるが、実際はどうであろうか…。私にとっては、冬とどのように景色が異なるのかも楽しみであった。

6/14　曇り時々晴れ

音松荘の前の駐車場に車を置いて、8:00出発。ムジナ沢にかかる橋の脇から山道を辿り、踏み跡が途切れたあたりから沢に入る。沢の水量は豊富で、周囲の森も深い。今日は上部までは行かず、途中の1000m付近で泊まる予定なので、山菜を捜しながらのんびり進む。さっそく山口さんがミズを見つけた。その後は、ウド・ウルイ・山ブドウなどの定番の山菜が採れた。特にウドはあちこちに生えており、食べきれないほどの収穫があった。

★下流部で竿を出す

沢はゴーロ状の平凡な流れだが、その中にちょっとした淵や釜があったので、石井さんと飯田さんが竿を出し、釣り上がりながらの遡行となる。結局人数分のイワナが釣れた。

とりあえず今晩のおかずは確保できたので、後半は少しペースを上げて真面目に遡行する。沢は平凡な流れの中に、所々小滝やミニゴルジュが出てくるといった感じ。やがてきれいなナメも現れて、変化が出てきた。途中で石井さんがヤブの中に入り、タケノコを見つけた。これもそこそこの量が採れ、今宵の食事に華を添えた。

沢は少し傾斜が出てきて、巨岩という程ではないが、大きな石を乗り越えながら進み、高度を上げていく。高度が上がると、沢の両岸に所々雪が残っていた。この辺りにはいいウドがたくさん生えていた。900mを過ぎたあたりから、幕場適地を捜しながら進む。今回は4・5人用エスパースを持ってきたので、幕場を見つけるのにやや苦労したが、何とかぎりぎり張れる場所を見つけた。時間はまだ14:30だが、焚火のスペースもあったので、今日はここで泊まることにする。ここは960mくらいの所で、すぐ先には赤ペンキの印があり、仕事道らしきものが沢を横切っていた（どこに通じているのかは分から

ないが)。焚火を起こし山菜を広げていると、釣り師と思われる二人組が下りてきた。釣り人はそこそこ入る沢のようだ。

さてお楽しみの山菜料理であるが、天麩羅・おひたし・和え物・炒め物などその全ては食当をお願いした石井シェフに作っていただいた。他の三人は焚火の番をしながら、ひたすら食べる人になってしまったが、さまざまな美味しい料理を手際よく作っていただいた石井シェフには感謝あるのみである。今回の泊まり組の中では唯一女性のいないパーティだったが、石井さんがこの沢の中に突如出現した居酒屋風料亭の女将の役を演じてくれた恰好になった…。それらの美味しい料理の数々を堪能し満腹となったところで、その夜は早めに就寝した。

6/15　晴れ

集中時間の12時に余裕で間に合うように早めに起きて、6:00出発。すぐに釜を持った小滝が現れ、それを越えるとその上はすっきりしたナメが続いていた。なかなかきれいなナメで、100mくらいはあった。朝一番ということもあり、思わず歓声が上がる。この辺りがムジナ沢のハイライトと言えよう。ナメ床はなおも断続的に続いた。

ナメの後は、20m程の大滝が現れた。これは地形図にも記されている滝だ。これまで大きな滝はなかったので、一際大きく感じられる。堂々とした直瀑で直登は無理。周囲の壁も切り立っており、簡単には巻けそうもない。ルートを検討した結果、少し手前の左岸の潅木が生えているラインから飯田さんリードで高巻いた。出だしが立っているのでやや悪く、後続はお助けロープを出してもらった。それにしても私が前にスキーで来た時は、この滝の記憶は全くない。おそらく冬は大量の雪で埋まっているので、滝が出ていても落差はあまりなかったのだろう。この沢全体を通して冬とは景観がまるで違っていた…。

大滝の上は再びナメが現れた。その先の小滝を越え、1150mを過ぎたあたりから沢が雪渓で埋まるようになってきた。雪渓の付き方が悪い箇所を高巻くと1180mの二俣。ここは左に入る。ここからは雪渓の上を歩くことが多くなる。1300mの二俣では右に入り早めに登山道に逃げる選択肢もあったが、もう少し本流を行こうということで、左に入る。清々しい青空の下、傾斜の緩い雪渓の上を快適に登っていく。しかしこのまま本流をつめていくと最後はきついヤブ漕ぎになるのは必至なので、1400m付近で右から入っている枝沢に逃げ、10分もかからずに9:35、前岳から北岳に至る登山道に出た。

稜線からの展望はすばらしく、目の前の鬼が面の大岩壁、眼下の田子倉湖、遠くには越後三山、毛猛の山々、平ヶ岳、会津朝日から会津駒、燧ケ岳まで見渡された。その大展望を楽しみながら、前岳経由で10:15、浅草岳山頂に到着。山頂には既にDパーティがいたので、我々は二番手だった。後は山頂からの大展望を楽しみながら他パーティを待つうちに、他パーティも順次到着し、浅草岳集中は大成功のうちに終わった。

Cパーティの食料について(石井シェフより)

●副食物の量と種類→ホタテ缶１個とベーコン１パック

※ホタテの汁までカウントすると30ｇくらい重量オーバー？

●食べた山菜の種類と料理内容

▲天麩羅にしたもの→ウドの芽・葉、山ブドウの新芽、ネマガリタケ

▲和え物→ウドの酢味噌和え、ミズのピーナッツ和え、ウルイのマヨネーズ和え、
ウルイのジャコ・鰹ぶし・ゴマだれ和え

▲炒め物→ウドとベーコンの炒め、ウルイとホタテの中華風炒め、ウドのチャーハン

▲その他→ウドの直火焼き、ネマガリタケの直火焼き、ネマガリタケの味噌汁

●山菜以外の食べ物→イワナの塩焼き、イワナのムニエル

◎このうち好評だったものは、「ミズのピーナッツ和え」「ウルイのジャコ・鰹ぶし・ゴマだれ和え」「ウルイとホタテの中華風炒め」「ウドのチャーハン」「ネマガリタケの味噌汁」などです。

飯田さん・山口さんのコメント

●懺悔はありませんが、反省点は担当した朝食（うどん）に山菜やイワナを使わなかったことかな。（ワークマンの「忍」で遡行して終始御機嫌だった飯田さん）

●唯一男ばかりのパーティーで、石井君が調理をすべてやってくれ、こちらは食べるだけで美味しい山菜料理を堪能することができました。特にミズのピーナツ和え、ウルイとホタテの中華風炒め、ウドの炒飯が美味しかったです。（山菜採りに一番熱心で、美女はいなかったけどふんだんにあるビールと美味しい料理に囲まれて幸せそうだった山口さん）

【行程】

6/14　駐車場（8:00）～960m付近の幕場（14:30）

6/15　出発（6:00）～20m大滝下（6:45）～1180m二俣（8:00）～登山道（9:35）～
浅草岳（10:15）

【地図】守門岳

★二日目　中流部のきれいなナメ

★二日目　２０ｍの大滝を望む

浅草岳　村杉沢遡行

小川

【日時】　2008年6月13日(土)～14日(日)
【メンバー】L小川、木下、佐貫、煤孫、野村、

【本流にかかるめおと滝 25m】

村杉沢をいく我々は国民宿舎の裏手の林道よりめおと滝へと向かう。道は宿舎の庭園から踏み跡があるのでわかりやすい。

入渓地点先にあるめおと滝は、断層を打ち破る力強い25m滝と左支流からの20m滝から成っている。見応え十分だが、周辺は崖が等高位に広がっており、巻くのが面倒である。ずっと手前の左岸より大きく高巻いて1時間で滝上へ。山菜山行とナメていたが、なかなかしんどい。

滝上にてウド（ちょっと育ちすぎ）を発見。さっそく頂こうとするも「焦ることはない」とトマの重鎮がたにたしなめられる。ちょっと不安だが、手をつけずに先をいく。

10m滝を左岸より巻いて、しばらくヤブっぽい沢を遡行したところで、竿を出す。僕が小ぶりなのを１匹、木下さんも途中の滝つぼで釣り上げていた。木下さんから釣り未経験の煤孫さんに竿が渡される。恐る恐る糸を垂れる煤孫さん。針を釜に投げ込むと、すぐに引きが来た！みんなで歓声をあげて煤孫さんの初釣果を祝う。（このあと煤孫さんが釜に落ちかけたのはイワナ一家の報復か。野村さんがお助けを出そうと言わなければ、ちょっと危なかった。）

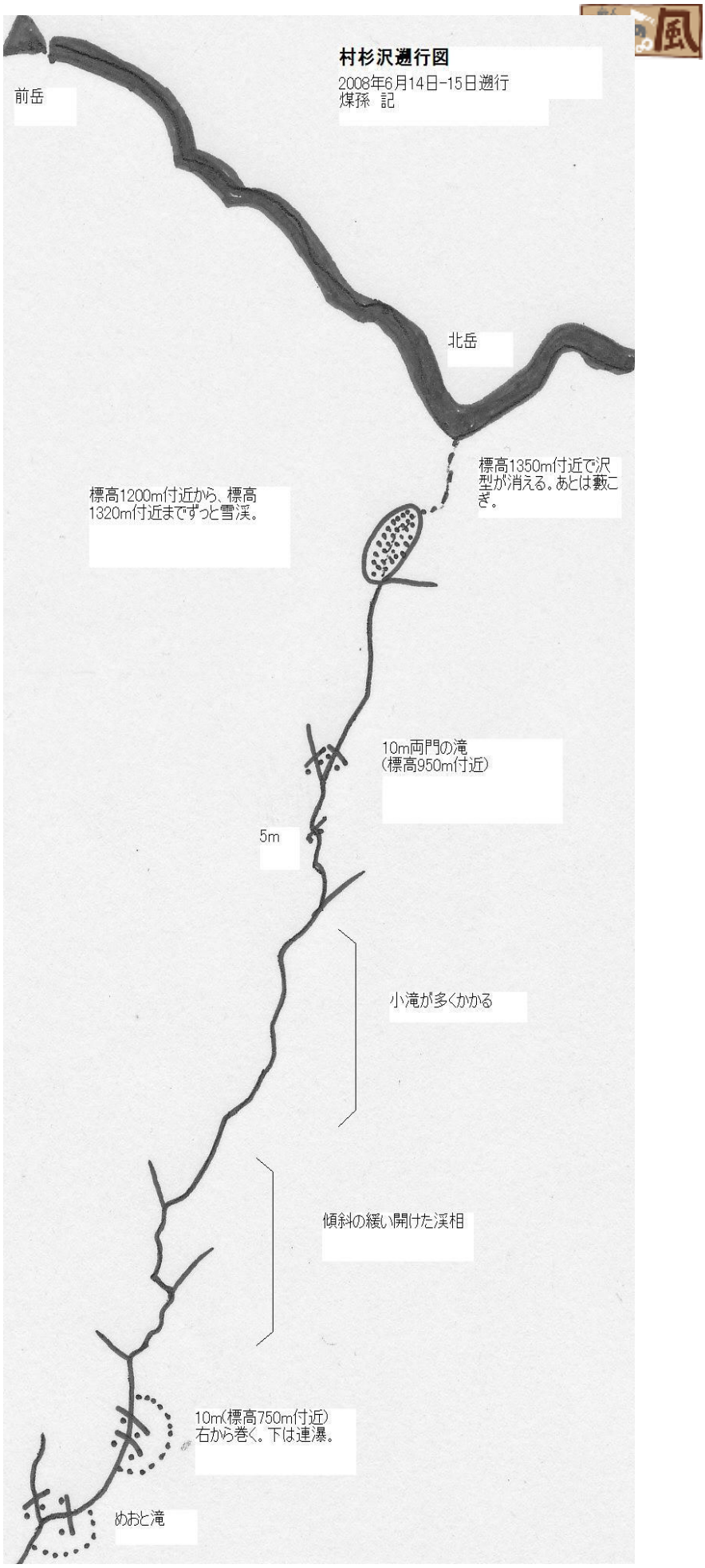
だんだんと高度をあげると山菜も食べごろのものが多くなり、ウドやウルイ、コシアブラをはじめ、タラの芽、トリアシショウマ、が採れた。1200m辺りの小台地をちょっとした土木工事で幕営地を確保し、今日の収穫を焚火の横に集めると、入渓時の不安は全くもって杞憂であったとわかる。佐貫さんの調理によってこれらの山菜がてんぷらにおひたしに、と次々に現れていく。さらに、木下さんはイワナを刺身とムニエル、味噌汁へと料理している。あえて塩焼きにしない辺りが心憎い。仕上げのコシアブラご飯を頂くと、酒のストックも後半戦。日本酒やらワインやらが登場し、宴会は22時くらいまで続いた。

翌日は4時半起床。残ったウドを入れたチャーハン。自然を舞台にした贅沢なひと時はまだまだ続いていた。
出発してしばらくで雪渓が断続する。何度か雪渓を越えて、最後は20分ほどのヤブ漕ぎで北岳と登山道へ到着する。浅草岳に目をやれば、青空をバックに非対称の山稜がここまで伸びている。東側はとんでもない岩壁である。
９時５０分、山頂に到着。ちょっと早すぎたか、トマのパーティはいない。ビールで山行の無事を祝い、テントを干してゆっくり余った時間を楽しむ。会津から越後、下田川内の山々を飄々と山座同定をする佐貫さんたちにここ周辺の山域への思い入れの強さを感じる。
だんだんと各パーティが山頂に集合し、予定時刻の12時を前に全員が無事に揃った。記念撮影をしたのち、ブナの森の登山道を駆け下りた。

☆　佐貫シェフのコメント☆
山菜は大豊作というわけにはいかなかったものの、なんとかお腹を満たす程度の調達に成功したことで、まあ目標はクリアというところかと思ってます。
コシアブラはぜひテンプラを味わってもらいたかったので、かなり真剣に探しました。なかなか珍しい顔合わせのパーティーで楽しい二日間でした。

☆　煤孫さんのコメント☆
コシアブラの天婦羅を食べながらビールを飲んだ時は涙が出るほど感激しました。岩魚の刺身も美味！こんなに幸せなことって世の中にあったんだ。もう二度とGWに怪我をしません。

【行程】
6/13　浅草大橋駐車場(8:30)～めおと滝(9:10/30)～滝上(10:20)～幕営地(15:30)
6/14　出発(6:30)～登山道(9:10/20)～浅草岳(9:50/12:10)～駐車場(15:00)


村杉沢遡行図
2008年6月14日-15日遡行
煤孫　記
前岳
北岳
標高1350m付近で沢型が消える。あとは藪こぎ。
標高1200m付近から、標高1320m付近までずっと雪渓。
10m両門の滝
（標高950m付近）
5m
小滝が多くかかる
傾斜の緩い開けた渓相
10m(標高750m付近)
右から巻く。下は連瀑。
めおと滝

６月会山行　浅草岳集中　小三本沢～浅草岳

佐藤（耕）

【日時】　2008年6月14日（土）～15日（日）
【メンバー】中村Ｌ・大野・三坂・佐藤（耕）

「うわっ！」っと中村君、のけぞった。名古屋文化圏では宗教上の理由で食ってはいけないもんがある。そこに嫁いだ池田某なぞ、カレーの下、飯との間にのっけて、この御禁制の品を食んでおるが、この山行で用意された副食が、それだったとわぁ……！

「ナァイナイナイ　ウドがない。ナァイナイナイ　ウルイもない。見えない、採れない、食いもんナイ……」と『鬼太郎ナイナイ音頭』で始まった小三本沢。中越地震で岸壁が崩落している。
「こりゃあ、山菜は見込めんなぁ」と思いきや、中村君、さっそく岩魚を４匹を釣りあげる。ほどなく沢も緑を取り戻し、消えたばかりの雪渓の後に、なんとかウドとウルイ、わずかにミズも見つかった。その先テン場も見込めないので、安沢出合で幕。

　ウドとウルイで「皿数」を増やさねばならん。まずは「ウドの刺身」。なんのことはない、生食できる太身を歯で皮をそいで、ガシッとほおばる。ウドの野趣が脳天に溢れ、ああ……またこの季節が巡りきたんだと、ビールをグビリ。
　「ウルイのディップ」は、まだ葉の十分開かないのを選って湯がき、マヨネーズと味噌をつけ、これはホワイトアスパラなんだ、と念じて食うのがミソ。食感がヌルッと柔らかくて、そう思えないこともない。ディップの種類増は今後の課題だ。
　定番「ウドの天ぷら」は、遠慮無用で揚げたてを口に入れれば太さも関係ない。

　ミズナは叩かずに生っぽくなく、チャッとゆでれば鮮やかな緑。あえた副菜その１がなんと納豆！　中村君、焚き火に崩れ落ちた。「く、食えない……」
　「これ、なしね」と、納豆は耕至オリジナルブレンドスパイスでつまみとなり（なかなかなので、今後登場、請うご期待）、ツナフレークが代理参戦。ウルイと軽く炒め、トムヤムクンでスープ仕立てにすると、こりゃぁ「ウルイのエスニックスープ」。

　最後に副菜その２のザーサイを、ウルイとウドの残りと一緒にゴマ油で炒める。コツはウルイを先に軽く湯がいておき、バーナーではなく焚き火にのせて強い火を使う。これで多量のウルイにいっぺんに火が通せ、強い火力で水気が飛ぶので、うまい中華に仕上がるのだ。極めつけは惜しげなく入れる牡蠣油で、実はオイスターソースは佐貫さん

のヒント。こうするとザーサイが、肉のような食感のこってりした旨みとなる。
　翌朝はこの「ウルイとザーサイの牡蠣油炒め」をトムヤムクン仕立ての素麺にのせ、「サイゴンの屋台の朝飯」にした。

　納豆といいザーサイといい、このたびは精進料理でしたね、食当の三坂さん。
　それにしても納豆が出てきても、ウドとウルイだけだって、僕らは幸せだった。
　なぜって、それは焚き火の向こうに、イワナがひとり一匹、チリチリと燻されているから。こんがりと薫る焼き焦がしを飯にのっけ……、醤油をたらしてはかぶりつき、飯にまぶしては、かっこむ。旨し……。
　あっという間に飯はなくなり、残った骨は焼酎で骨酒もどきにして吸い付く。こうして夏至を迎えようという長い夕べも、いつしかとっぷりと暮れていった。

　翌朝立って10分ほどすると、なんと左岸の道とおぼしきところに、ACCJ茨城パーティーがタープを張っているのに遭遇した。前日は沼の平からの出合あたりまでご一緒し、まだ後ろにいるのかと思いきや、我々が滝を登っているのをさっと巻いて先に出、ここに張ったとのこと。見ればそこがホントの安沢の出合だった。

　さらに進めば、雪渓と小滝のオンパレード。いろいろ出るじゃないかと、飽きずに遡れば大滝で見事である。大野君が左側から取り付き、ハングっぽいところもグングンとロープをはってくれたおかげで無事通過。雲はどんどん切れはじめ、夏への扉が開くころというのに、詰めはまだ沢一面の雪渓。ACCJ茨城のふたりに追い抜かれながら、ドンジリで約束の正午に山頂に着く。春を食い、なごり雪を登った稜線には、初夏の風がさわやかに吹いていた。

【行程】14日　8:30 登山口　9:25 二俣遡行開始　1:40 安沢手前の支流出合BP
15日　7:00 BP　9:15 大滝下　10:15 大滝上　12:00 浅草岳山頂　2:50 登山口

【6月会山行Fパーティー】快適な焚き火のはずが・・・

会越　　浅草岳　大三本沢～浅草岳

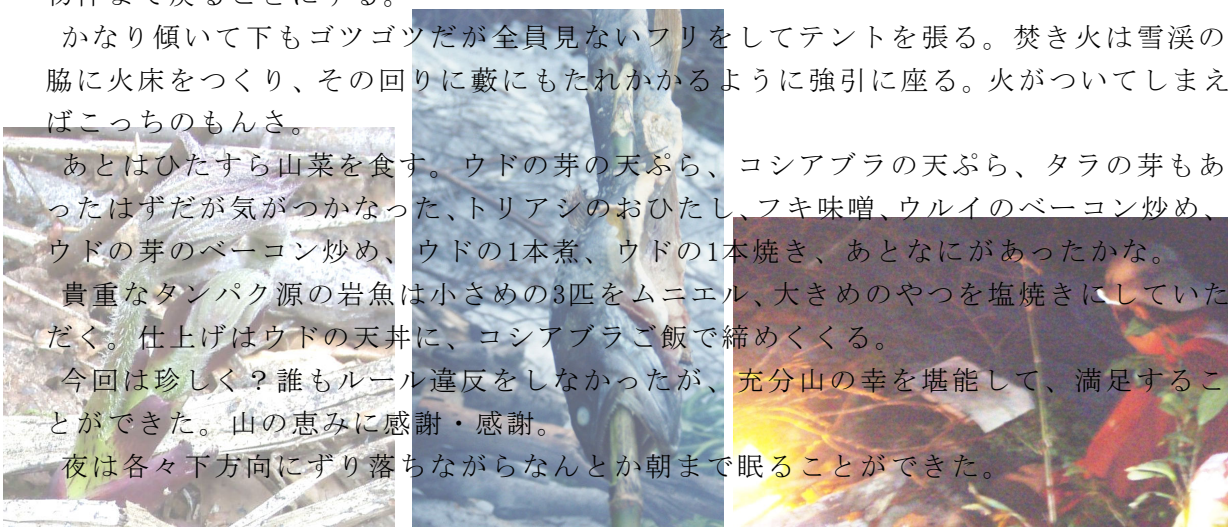
藤岡

【日時】　2008年6月14(土)-15日(日)
【メンバー】L矢野、田邊(一)、栗原、藤岡

6/14(日)　晴れのちくもり
昨年は雨で中止になり、一昨年は怪我で休養だったので２年ぶりの春の会山行。長谷川くんが仕事の都合で行けなくなったので、私以外はムキムキマンパーティだ。とはいえ今回は山菜を楽しみながらののんびり山行なのである。
前夜トイレのある蒲生岳登山口で仮眠し、約束通り？７時起床で浅草岳登山口へ移動。ポクポクと林道を歩く。既に皆山菜目になっているが、こんなところでは収穫は望むべくはない。二俣から大三本沢へ入渓。のんびりと釣竿を出しながら進んでゆくが、リリースサイズしかかからない。しばらく行くと先に釣り師のおじさんがいた。手前で休憩しながら様子を伺うがかなり粘っているので、挨拶をして先に行かせてもらう。魚留滝で釣るとのことで、我々は右岸から踏み跡をたどって高巻く。
その後は広い川原が続き、盛大な焚き火のできそうな場所がいたるところにあるが、さすがにまだお昼過ぎなので先へ進む。私はコシアブラ目当てに右岸の台地をひたすら1人で藪を漕ぐが、なかなか出会うことができない。かなり大きくなったタラの芽が取れた。あきらめて沢へ戻ると田邊さんが粘って４匹くらい釣り上げてくれていた。その後幾度かウド畑が出たりしたが、なかなか美形のコシアブラが見つからない。とても成長しすぎた下品なものばかりだ。しかたなく枝先の小さな新芽だけを採取する。そうこうしているうちに、天場予定の800m付近まで来てしまった。さきほどまで絶好の天場だらけであったが、やや沢幅が狭くなり両岸土手になってきている。
矢野リーダーが天場跡をひとつ見つけてみなを諭すが、まだまだ時間が早いので、もっとサイコーの天場があるぜーっと誰もリーダーの言うことに耳を貸そうともしない。結局地形図をたよりにその先を右に曲がれば夢のような天場適地が広がっているよ～っとありもしない妄想を抱いて歩き続ける。
あ！雪渓だ。と思ったら沢全体が延々と雪で埋め尽くされている。ついに1000mの二俣まで来てしまった。時間ももう１５時。このまま避難小屋までいっちゃう？という意見も出たが、ここに至ってようやくみな来すぎてしまったことに気付いたようだ。おもむろに矢野リーダーに「どうする～」と意見を求めるが、矢野ちゃんは「そやからさっきいうたやろ～」という言葉を噛み締めてニコニコ笑っている。

栗原さんの意味不明な「まっ、何とかなるでしょう・・・」という無責任な発言をたよりに、さっき栗原さんが見つけた台地上の3畳一間高架下、風呂なし共同トイレの格安物件まで戻ることにする。

かなり傾いて下もゴツゴツだが全員見ないフリをしてテントを張る。焚き火は雪渓の脇に火床をつくり、その回りに藪にもたれかかるように強引に座る。火がついてしまえばこっちのもんさ。



あとはひたすら山菜を食す。ウドの芽の天ぷら、コシアブラの天ぷら、タラの芽もあったはずだが気がつかなった、トリアシのおひたし、フキ味噌、ウルイのベーコン炒め、ウドの芽のベーコン炒め、ウドの1本煮、ウドの1本焼き、あとなにがあったかな。

貴重なタンパク源の岩魚は小さめの3匹をムニエル、大きめのやつを塩焼きにしていただく。仕上げはウドの天丼に、コシアブラご飯で締めくくる。

今回は珍しく？誰もルール違反をしなかったが、充分山の幸を堪能して、満足することができた。山の恵みに感謝・感謝。

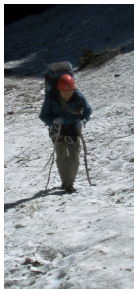
夜は各々下方向にずり落ちながらなんとか朝まで眠ることができた。

6/15（日）快晴

もう1000mまできているので、朝はゆっくり寝坊する。

前夜揚げておいたウドの天ぷらをのせた天ぷらうどんと、またウルイのベーコン炒めで満腹の朝食をいただく。

仕度したら、あとは延々と雪渓を源頭まで詰める。矢野ちゃんにならって木の棒二本でストック風に使うとかなり歩きやすい。矢野ちゃんはまだスキーに未練があるようで、沢足袋の裏にシールを張ってくれれば良かったと意味不明なことを言っている。1500mくらいで雪渓も終わり藪に突入。笹中心で大したことはないが、背丈が伸びているので、リーチがないとちょっと辛いかもしれない。500mくらいで登山道に出た。



やや遅れた栗原さんは他の登山者に迎えられてゴールイン。山頂には既に小川P、浅井Pが到着していた。他Ｐを待つ間にやや収穫しすぎたウドを消費すべく、せっせと根本を剥いて酢味噌で皆に振舞う。ちゃんと山頂ビールを残しているパーティのご相伴に預かる。

最後に中村Pを迎えて全員集合。一緒に集中してくれたACC-J茨城パーティも一緒にみなで記念撮影。今回も楽しく山頂で全Ｐ集中できました。

我々は叶津側への登山道を、ときどきコシアブラを採取しながらのんびりと下山。１５時頃に登山口へ到着して無事終了。車のワイパーに挟んであった、只見温泉保養センターで汗を流して帰京しました。

【グレード】１級

【行程】6/14 登山口(8:30)～二俣(9:20)～1,000mBP(14:55)

6/15 BP(8:00)～浅草岳(10:40～12:10)～登山口(14:50)

【地図】只見、守門岳

【メンバーの声】

春の会山行は何かと用事が入って参加できず、食料制限のある会山行に参加するのは何と今回が初めてなので楽しみでした。食料制限とは言っても、この時期、この場所で何にも採れないということは考え辛いので、あとはいかにおいしいつまみを増やせるかどうかの勝負です。幸いウド・ウルイ・コシアブラ・トリアシショウマ・フキなどの山菜と小さいながらも人数分の岩魚もゲットして、あとは手ごろなテン場で焚火を囲みながら一杯といくところが、登りすぎたせいで雪渓だらけでなかなかテン場が見つからない。それでも何とかスペースを見つけて、楽しい夜を過ごすことができました。翌日は長い雪渓歩きとヤブ漕ぎで 12 時集合のところを 10 時半ころ着いたので一番のりかと思いきや、既に２パーティが到着しており、昼寝をしている人もいるくらい。素晴らしい天気の中、集まってくる連中は皆こぼれそうな笑顔ばかりだ。今年も充実したよい山行がたくさんできそうな予感がします。担当の方々、ご苦労様でした。（田邉記）

楽しいメンバーとおいしい料理、のんびりと沢を遡行し、トマのみんなと山頂で集中、と贅沢なひと時を過ごした。浅草岳の北斜面にはまだ雪渓がたっぷり詰まっており、ああ、私はこの斜面を滑ってみたくなってトマの風の門を叩いたんだっけ、と懐かしく思い出す。沢にもメンバー的にも全くプレッシャーがない、そんな山行もたまにはいいかも。（栗原記）

山菜に関しては未だにほとんど頭に入っていないのです。だから、メンバーの皆様には申し訳ないが嗅覚鋭く右に左に走ってもらうしかない、という気合を持って食料制限付の当山行に臨みました。けれども、プッシュするまでもなくメンバーは散り、瞬く間に一晩分の山の恵みが揃ったのです。取り越し苦労でした。感じたことは、山に入っても飽食というよりも、その時その場にあるものを必要な分だけいただくことは、とても自然である、ということでした。（矢野記）

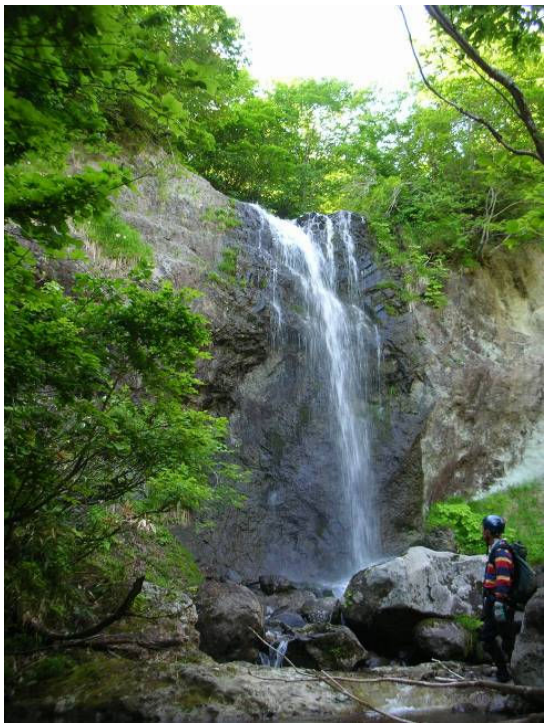
【6月会山行Gパーティー】シーズン初めにお薦めな日帰り沢

浅草岳　ヤヂマナ沢

岩田

【日時】2008年6月15日
【メンバー】L岩田、手嶋、渡辺、津田

6月の会山行というと山菜を採りながらののんびり山行というイメージがあるのだが今回はそうはいかない。日帰りでしかも集結の時間制限ありなので先を急がなくてはならない。他パーティーは山菜や岩魚を採ったり、食料制限ありなどでなかなか楽しそうである。しかし、今回のメンバーは久々に沢に一緒に行く人たちばかりなのでこれはこれで楽しみである。中でもカメさんは久々の参加で復活は嬉しいものだ。



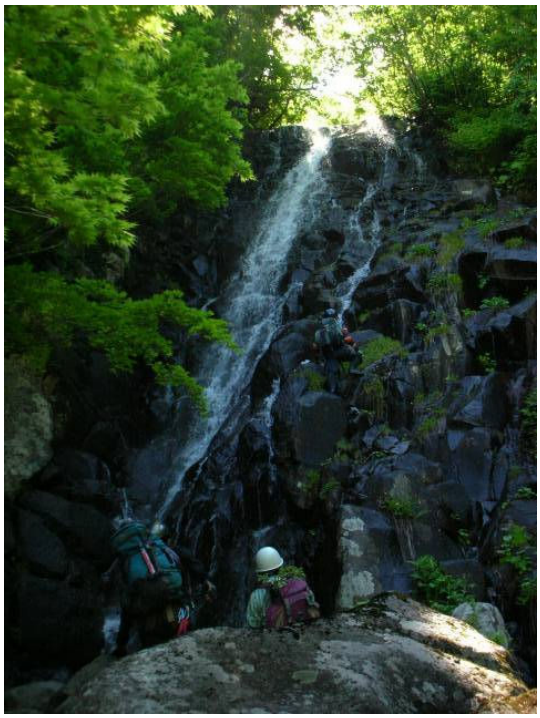
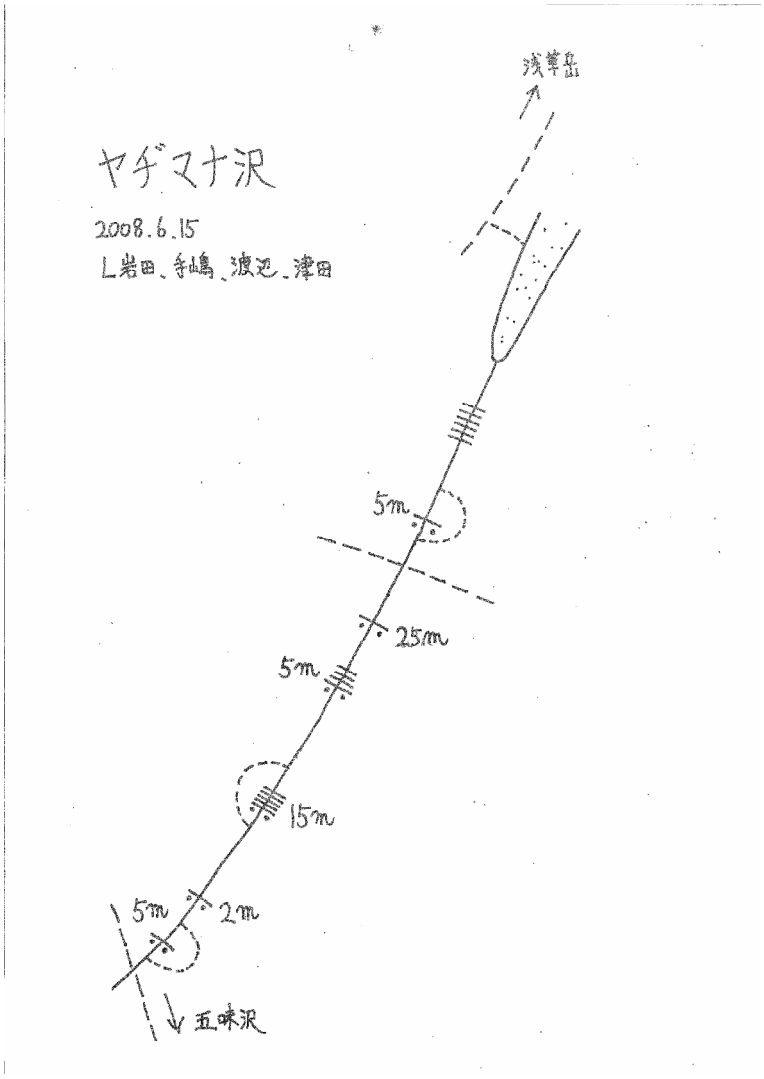
前夜は道の駅で仮眠を、と思っていたがこの道の駅が移動してしまったそうで（そんなことってあるの？）結局見つけられなかった。仕方なく登山口の大駐車場で仮眠となった。

翌朝、12時集結を目指して意気揚々と出発。五味沢から浅草岳への登山道はあまり利用されていないのかところどころわかりにくい。しかも地図とは登山道がちょっと違っているみたいでややこしい。登山道がそれらしき沢を横切っているところから入渓した。計画当初はスカ沢ではないかと思っていたのだが周囲はスラブっぽい風景で期待させてくれる。最初の5m滝は右岸を高巻き、続く2m滝は左の側壁を登るのだがホールド、スタンスが乏しくちょっとスリルがある。久々のカメさんは右の落ち口をお助けで登る。この後はしばらくヤブっぽい風景が続くが突如として明るく開けた垂直15mの滝が現れる。こんな立派な滝があったとは･･･感心しながら右岸のヤブを漕いで高巻く。この後は再びヤブっぽい風景が続く。5m滝を越えるとウド・ウルイ畑が現れ思わず立ち止まるがのんびりはしてられない。ほんのちょっといただいて先を急いだ。

そしていよいよ地図の記号の滝に遭遇だ。25mはあるだろうか、これもまたなかなか立派な滝である。ホールド、スタンスは豊富そうなので全員フリーで取り付く。時折水しぶきを浴びながらの滝登りはたまらない。まさに沢登りの醍醐味である。この滝を越えると地図上の登山道に出合うがすでに廃道になっているようだ。5m滝を高巻くとところどころにナメが出てきてなかなか美しい。ヤブっぽくなってくると予想通り雪渓が現れおそるおそるの雪渓歩きとなる。思ったより長い雪渓で登山道に近くなったあたりで右

岸のヤブを5分ほど漕いで登山道に出た。スカ沢と思っていただけに滝ありナメありでなかなか楽しめる沢だった。

登山道からは登山客も増え、おまけに虫も増えた。しばらくの我慢で浅草岳山頂を目指して歩く。山頂ではすでに他パーティーが到着していた。天気に恵まれたおかげでみんな満足のいく山行ができたようだ。最後の中村パーティーが到着して全員集結。見事なフィナーレで大成功の会山行だった。



【グレード】2級
【行程】5/15　6:00（駐車場）～入渓点(7:05)～廃道(9:25)～登山道(10:35)
【地図】守門岳